

■ バッテリ状態初期設定 (i-stop 設定) [SKYACTIV-D 2.2]

id0117h6801000

□ バッテリ状態初期設定 (i-stop 設定) 手順

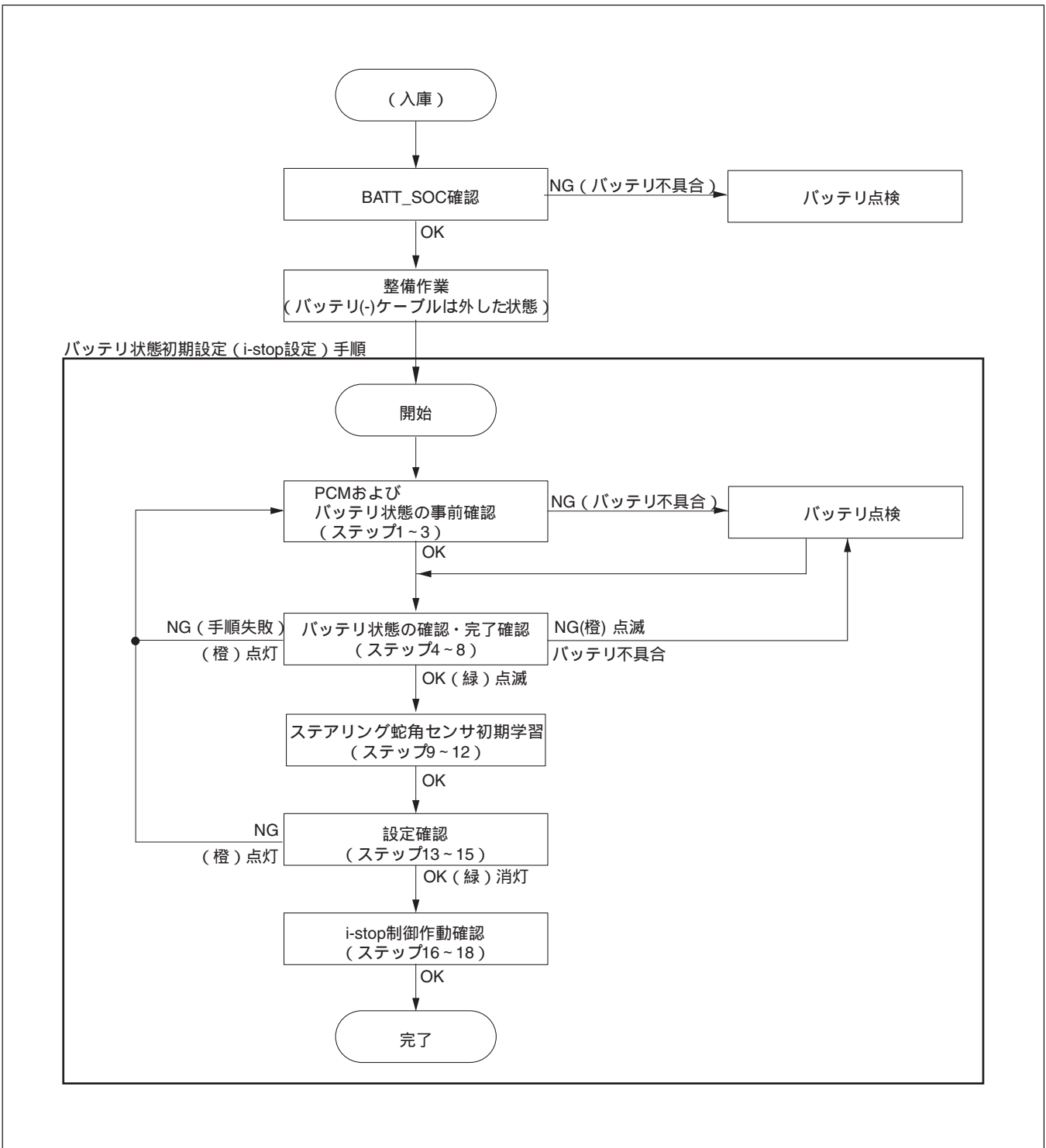
注意

- ・ ボンネットを開けた状態でエンジンをかけると、ボンネットを閉めてエンジンを再始動させるまで i-stop が作動しない。(システムの不具合ではない。) ボンネットを開けた状態でエンジンをかけた場合は、一度エンジン・スイッチを OFF にした後、ボンネットを閉め、エンジンを再始動させること。
- ・ 「i-stop しない」状況で車両が入庫した場合、バッテリー状態初期設定 (i-stop 設定) を実施しただけでは不具合は解決しない。データ・モニタ項目「BATT_SOC」の値を確認し、「BATT_SOC」の値が 75%未満であれば、バッテリーの点検を行うこと。(参照: バッテリ点検 [SKYACTIV-D 2.2])
- ・ バッテリ (-) ケーブル切離し前に、「BATT_SOC」を確認していない場合、バッテリー点検を実施してからバッテリー状態初期設定 (i-stop 設定) を実施すること。
- ・ バッテリ (-) ケーブルを接続した直後は、バッテリーの充電状態が安定していない為に「BATT_SOC」の値は「0%」と表示される。(バッテリー充電状態の安定まで約 6~48 時間の放置が必要。)

参考

- ・ 排気ガス浄化性能安定のため、走行距離 10 km 以下で DPF 再生制御未実行の場合は、バッテリー状態初期設定 (i-stop 設定) の設定確認手順実施時に自動的に DPF 再生制御を実行する。(なじみ再生制御)
 - ・ なじみ再生制御実行中は、エンジン回転数が高い状態が一定時間続く。(最長で 22 分程度 (冷却水温により異なる))
- ・ バッテリ (-) ケーブルを切離した場合、PCM 内の特定情報が消去されるため、接続後は以下の手順を行う。

バッテリー状態初期設定 (i-stop 設定) の流れ



目的	ステップ	手順	注意点・留意点
PCM およびバッテリー状態の事前確認	1	<p>バッテリー (-) ケーブル切離し前に測定した数値 (BATT_SOC)を確認する。 BATT_SOC の値が 75%以上の場合 ・次のステップ (バッテリー状態設定の基本操作) へ進む。 BATT_SOC の確認忘れ、または BATT_SOC の値が 75%未満の場合 ・バッテリー点検を行う。(参照: バッテリー点検 [SKYACTIV-D 2.2])</p>	-
	2	<p>バッテリー (-) ケーブルを切離した状態で、5 分間以上経過していることを確認する。</p>	<p>注意 ・バッテリー使用状態によっては電圧が安定しておらず、PCM が BATT_SOC を正しく判定できなくなる為、5 分以上の放置が必要。</p>
	3	<p>電流センサのコネクタを切離す。既に、電流センサのコネクタが切離されている場合は、次のステップへ進む。</p>	-
バッテリー状態の確認・完了確認	4	<p>バッテリー (-) ケーブルを接続し、10 秒以上待つ。</p>	<p>注意 ・バッテリー (-) ケーブル端子の締付けトルク: 2.9—4.9 N・m</p> <p>参考 ・電流センサのコネクタを接続する前にバッテリー (-) ケーブル端子を接続すること。電流センサのコネクタを先に接続した場合、PCM が電流センサからの信号を誤認識し、バッテリー状態を誤学習するおそれがある。</p>
	5	<p>電流センサのコネクタを接続する。</p>	-
	6	<p>エンジン・スイッチを ON (エンジン停止) にし、15 秒以上 (1 分以内) 待つ。</p>	-
	7	<p>i-stop 表示灯 (緑)、i-stop 警告灯 (橙) の点滅状態確認 ・i-stop OFF スイッチを押し続け、i-stop 表示灯 (緑) または i-stop 警告灯 (橙) が点滅状態になるのを確認する。(約 10 秒間) i-stop 表示灯 (緑) が点滅する場合 — 次のステップへ進む。 i-stop 警告灯 (橙) が点滅する場合 — バッテリー点検を行う。(参照: バッテリー点検 [SKYACTIV-D 2.2]) i-stop 警告灯 (橙) が点灯する場合 — 手順に不備がある為、再度ステップ 1 (PCM およびバッテリー状態の事前確認) から行う。</p>	<p>参考 ・i-stop OFF スイッチを押すと、i-stop 警告灯 (橙) の点灯状態から i-stop 表示灯 (緑) または i-stop 警告灯 (橙) の点滅状態に変わる。</p>
	8	<p>エンジン・スイッチを OFF にする。</p>	-
ステアリング舵角センサ初期設定	9	<p>ボンネットを閉じる。</p>	-
	10	<p>エンジンを始動する。</p>	<p>参考 ・バッテリー (-) ケーブルを切離すことで、EPS コントロール・モジュール内の初期値がリセットされる。</p>
	11	<p>ステアリング・ホイールをロック トゥ ロックする。</p>	
	12	<p>エンジン・スイッチを OFF にする。</p>	

目的	ステップ	手順	注意点・留意点
設定確認	13	<p>以下の手順を 25 秒以内に実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジン・スイッチを ON (エンジン停止) にし、5 秒以内に i-stop OFF スイッチを 3 秒以上長押しする。(i-stop 警告灯 (橙) が点灯する) 2. エンジンを始動する。 3. i-stop OFF スイッチを 1 回長押しする。 4. i-stop 警告灯 (橙) の点灯から、i-stop 表示灯 (緑) の点滅に切替わることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> — 橙点灯が続く場合、手順に不備がある為、再度ステップ 1 (PCM およびバッテリー状態の事前確認) から行う。 <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なじみ再生制御が未完了の場合、自動でなじみ再生制御が開始され、以下のモードとなる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジン回転数が 2000 rpm に固定され、エンジン水温が 70℃になるまで暖機する。 2. エンジン水温が 70℃を超えると、なじみ再生制御が開始される。このとき、エンジン回転数が 1750 rpm に固定される。 3. 約 8 分後になじみ再生が終了し、アイドル回転に移行する。 	<p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンジン始動直後に、i-stop 表示灯 (緑) が点滅する可能性があるが、数回点滅後に i-stop 警告灯 (橙) の点灯に切替わる。 ・なじみ再生制御の解除条件は以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジンを停止する 2. アクセル・ペダルを踏み込む
	14	i-stop 表示灯 (緑) が消灯するまでアイドル状態 (電気負荷無し) で待つ。	-
	15	i-stop 表示灯 (緑) が消灯後、エンジン・スイッチを OFF にする。	-
i-stop 制御 作動確認	16	エンジンを始動し、i-stop 表示灯 (緑) が消灯していることを確認する。	-
	17	<p>以下の手順で、i-stop 制御の作動確認を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 車速 4 km/h 以上で走行し、i-stop 表示灯 (緑) が点灯することを確認する。 2. 車両を停止させ、i-stop 制御によるエンジン停止、および再始動が行われるか確認する。 	-
	18	エンジン・スイッチを OFF にする。	-